

足立区基本計画審議会  
第4回くらし・まち分科会 会議録

令和6年3月28日

## 足立区基本計画審議会 会議概要

会 議 名	足立区基本計画審議会 第4回くらし・まち分科会		
事 務 局	政策経営部 基本計画担当課		
開 催 年 月 日	令和6年3月28日（木）		
開 催 時 間	午前10時00分 ～ 正午		
開 催 場 所	足立区役所 南館8階 特別会議室		
出 席 者	【委員】		
	宮本 みち子 分科会長	長谷川 勝美 副分科会長	加藤 和明 副分科会長
	遠藤 章 委員	山下 俊樹 委員	渡部 郁子 委員
	小柳 真太 委員	岡安 たかし 委員	渡辺 ひであき 委員
	國井 幹雄 委員		
	【事務局】		
	政策経営部長 勝田 実	基本計画担当課長 伊東 貴志	基本計画担当係長 山崎 悠生
	政策経営担当係長 芳賀 優美子	政策経営担当係長 鈴木 力	政策経営担当係長 乾 洋平
	政策経営担当係長 土井 渉	政策経営担当係長 古田 信幸	政策経営担当係長 池田 広幸
	株式会社 地域計画連合 相羽	株式会社 地域計画連合 青野	株式会社 地域計画連合 青柳
関 係 所 管	福祉管理課長 近藤 博昭	都市建設課長 室橋 延昭	
欠 席 者	なし		
会 議 次 第	1 第3回分科会での意見について 2 足立区基本計画策定のための多様な意見聴取について 3 基本計画における施策に関する変更内容について 4 事務連絡		
資 料	・ 【資料1】 第3回分科会での主な意見一覧 ・ 【資料2】 意見提出用紙による意見一覧 ・ 【資料3】 足立基本計画策定のための多様な意見聴取について ・ 【資料4】 基本計画における施策に関する変更内容について ・ 【資料5】 第3回全体会開催通知		

<p>そ の 他</p>	<p>傍聴人：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (    人 )</p> <p>その他参加者：有 <input checked="" type="radio"/> 無 (            )</p>
--------------	--

## 様式第2号（第3条関係）

（審議経過）

（伊東基本計画担当課長）

それでは定刻になりましたので、ただいまより第4回足立区基本計画審議会くらし・まち分科会を開催します。本日は年度末のお忙しいところ、ご出席を賜りまして誠にありがとうございます。私は本日の司会を務めます基本計画担当課長の伊東です。よろしくお願いいたします。

最初に連絡事項がございます。本分科会は条例で公開を原則としておりますので、会議記録はホームページで公開をさせていただきます。また、会議記録を正確に記録するため、録音をさせていただきます。なお、広報やホームページに掲載するために写真撮影をさせていただきますので、その点もご了承願います。

それでは最初に配付資料の確認をさせていただきます。資料1から5までの5点と、その他に机上配付資料がございます。資料1が第3回分科会での主な意見一覧。資料2が意見提出用紙による意見の一覧。資料3が足立区基本計画策定のための多様な意見聴取について。資料4が基本計画における施策に関する変更内容について。こちらは資料4-1から4-5までございます。そして資料5が第3回全体会の開催通知です。その他、席次表と意見提出用紙を配付しています。不足はございませんか。また資料については、タブレットでご覧いただくこともできますので、ご入り用の委員は事務局までお申し付けください。

続いて、席上マイクの使い方です。発言の際にはお手数ですが、お手元のマイクのボタンを押していただき、ランプが点灯しましたら、最初にお名前をおっしゃっていただければと思います。お名前は会議録作成に必要なものです。発言が終わりましたらマイクのボタンを押してください。

では、ここからの進行は宮本会長にお願いします。

### 1 第3回分科会での意見について

（宮本分科会長）

おはようございます。よろしくお願いいたします。

まず、それでは次第に沿って進めさせていただきます。次第の1、第3回分科会での意見について、事務局から説明をお願いします。

（伊東基本計画担当課長）

資料1-2をご覧ください。こちらは2月に行われた、くらし・まち分科会で出た主な意見をまとめたものです。大きく分けて健康に関すること、都市整備や公園に関すること、災害対策に関すること、その他といったことで意見をいただきました。まず健康に関しては、健康寿命を延ばしていくという点や、健康づくりという点では、スポーツの視点が欠かせないということで、スポーツによる健康維持増進というところを取り入れていくべきではないかというご意見をいただきました。その他、性感染症の健康チェックですとか、昨今問題となっているオーバードーズなども検討する必要があるというご指摘をいただきました。

また、都市整備・公園に関する意見では、街の中にパブリックスペースがあるのは魅力的であるということで、これを効果的に意識したまちづくりを進めていく必要があるというご意見。それに関連して水辺の空間に手つかずのところがあるため、整備すれば有効な空間が生まれていくのではないかというご意見。また、安心・安全な道路環境のため、道路下の空洞に関する調査も進めていくべきというご意見。また、老朽家屋を取り壊すことで、防犯・防災を進めていくことにつながるというご意見。また、区内の公園は禁止事項が多く、なかなか使いづらいため、公園ごとの特色を設けて、もう少し自由に遊べる空間にした方がよいのではないかというご意見をいただきました。また、都市農業を保全することで、緑のある空間を広げていくことに寄与することや、公園を活用する際には条例が足枷になることがあるので、このあたりを改善すべきではないかというご意見。

災害対策については、家庭内備蓄を一層進めていくべきではないかというご意見。その備蓄についても、現役世代の一人暮らしは家庭内備蓄の割合が低いので、アプローチが必要ではないかというご意見。また、要支援者対策につい

ては、当事者のご意見を聞きながら、時間を掛けてじっくりと取り組んでいく必要があるというご意見。

その他としては、外国籍の方への視点ということで、今後外国人が増えていく中では、各施策の中で外国人のことを意識していく必要があるのではないかという点。また、環境に関する事で、CO<sub>2</sub>の削減に関して、区民が何をしていけば良いのかというところをより明確にしていくべきではないかというご意見。また、反社会的団体への施策ということでは、そういった団体は実態を隠しているケースもあるため、対策がより一層必要ではないかというご意見をいただいています。また、デジタルの世界は、居住地に関係ない世界なので、足立区に住んでいてビジネスを作ろうとしている方々への支援が今後必要であるというご意見。また高齢者も今後インターネットを使うことが当たり前の時代が到来するので、そういったインターネットを使った施策やビジョンも必要ではないかというご意見。また、高齢者もスマートフォンを使っているというところで、インターネットを使った健診の予約とか、マイナカードの拡充を検討すべきというご意見。また、安全に関する事では、特殊詐欺が多いという実態があるので、詐欺に強い足立区というところを高めていくべきではないかというご意見などがありました。

資料1-1をご覧ください。こちらは、ひと・行財政分科会でのご意見です。主に子ども・若者の意見表明に関することや人権意識、子ども・家庭に対する支援、学校・教育に関するご意見等をいただいています。

子ども・若者の意見表明については、子どもたちが考えていることを今後行政に反映していく。そして、子どもたちから意見を聴くというスタンスではなく、子どもたちがこうしたいと考えていることを行政と一緒に考えていくことが必要ではないかというご意見。また、子どもに対しては支援をするとか、支えてあげるという大人からの視点が多いのですが、子どもと大人が同じ目線に立って考えていくことが今後更に重要になるのではないかというご意見

をいただいています。

また、人権意識・配慮についてですが、子どもへの人権教育は、学校で行われているところが多いが、大人になってから価値観が変わるものではない。だからこそ大人に対して人権を考えていく機会を設けるべきではないかというご意見。また、足立区には人権に関する包括的な条例がないので、条例による裏付けが必要ではないかというご意見。また、どんな区民にも分かりやすい文章として、これは易しい日本語に関してですが、そういったところから誰にでも分かりやすいものを提供していくことは、人権意識を高めていく一歩になるのではないかというご意見もいただいています。

その下、子ども・家庭への支援というところでは、おむつの配布や見守りなど、今までとは異なるアプローチとして、ポピュレーションアプローチに関するご意見。また、虐待や引きこもりなどは相談しづらい・できない状況にあるので、4月に福祉まると相談課という部署ができるのですが、そういった一括して相談に乗っていただけるような場所ができることが非常に望ましいというご意見。また、ひとり親の支援に関して、シングルファザーとシングルマザーへのアプローチは自ずと異なるので、アプローチを分けることも必要ではないかというご意見。また、中学校を卒業して、そのまま社会に出る子どももいるので、そういった中学校を卒業して就労する方への支援も施策として必要ではないかというご意見をいただいています。

学校や教育に関する事については、まず、コミュニティスクールについてのご意見をいただきました。コミュニティスクールを拡充するべきというご意見がある一方、現状開かれた学校づくり協議会というのが足立区にはあり、コミュニティスクールと一定程度やっていることが重複しているとしてご意見が分かれたところがありました。また、足立区の教育の特色として、学力を上げるという点と、個性を伸ばしていくというところを二本柱に据えてアピールしていく必要があるのではないかというご意見をいただいています。

また、その他については、公共施設について

のご意見をいただいています。施設の利用率等を総合的に勘案して、今後は施設の統廃合や、民間との連携等も進めていくべきではないかというご意見があった一方、区民にとっては活動する場所は、公共施設に頼らざるを得ない部分があるので、利用率だけで捉えるのではなくて、様々な視点から公共施設のあり方を考えるべきではないかというご意見。また、足立区は悪いイメージを脱却する施策は様々やっているが、良いものを伸ばすという視点が足りないのではないかというご意見。あとは区が情報を発信することは多いけれども、区民が発信をした情報を区が把握して活かしていくといった点が弱いのではないかというご意見。そのほか、若者が起業できるようにベンチャーの支援を行っていくべきというご意見。そういった若者が活躍できるための支援をしている区だというイメージを高めていくことが必要なのではないかというご意見をいただいています。

#### （宮本分科会長）

ありがとうございます。ただいまの説明に対してご意見をいただきたいと思います。まず、ポイントは委員の皆様から既にご発言をいただいたものが記載されていますので、この記載で正しいのか、あるいは、何か加えるものがあるのかどうか。そのあたりを見ていただいて、ご指摘をいただければと思います。いかがでしょうか。

資料1-2からまいりましょうか。本分科会についてですが、左上の健康に対する意見。ここでお気付きのことはありますか。私から1点。オーバードーズについて書かれています。オーバードーズは最近になって非常に急増が指摘されているのですが、例えば大麻などどこが違うのかということも、かなり具体的に指摘をされています。大麻に関しては、最初は好奇心や面白そうということで入っていくけれども、オーバードーズの根底にあるのは孤独とか孤立感だと言われていて、だいぶ性格が違うということです。したがって、深刻化する心の病の問題と、このオーバードーズ問題が直接結び付いているという指摘があります。そういう意味では、単に健康教育だけで解決ができない問題が

あります。ですから、例えば資料1-1で言うと、左下に子ども・家庭への支援がありますが、子どもたちの孤立・孤独という問題が非常に顕著になっていて、非行と言うよりも、孤立・孤独の方が大きいという実態がありますので、そのあたりのところと関わっていくのではないかという点。それ以外に、こうやって見ると、妥当な受け皿がないように感じますが、そのあたりに気付いたところですよ。そのほか、健康に関していかがでしょうか。追加がなければ次にまいります。

都市整備・公園に対する意見はいかがでしょう。

#### （岡安委員）

これも受け皿がないのかなというところで、高齢者の介護保険料にも跳ね返ってきますが、非常に介護料が伸びてしまっている。その一つに健康でいられる日々を過ごせるそういう状況、フレイルをしっかりと予防していくという、その意味での施策というのを足立区はやっています。公園を使ったスポーツを楽しめる環境ですとか、いろいろなフレイル予防の教室ですとか、高齢者が健康でいられるという施策のことを少し文言で入れるところがないものかと思います。1-1だと子どもとか若者になりますし、健康の方に入れるしかないのかなと思うのですが、いかがでしょうか。

#### （宮本分科会長）

山下委員、いかがですか。

#### （山下俊樹委員）

フレイル予防は言われて久しいのですが、このコロナで逆戻りをしてしまった。それまでは、住区センターでの活動なども盛んに行われていたものが、施設そのものが閉まってしまったので、この3～4年動きが少ない高齢者が増えたような印象があります。それが今の超過死亡の上昇につながっているのではないかとされています。今後、再開していけば、まちのコミュニティの場において、高齢者たちがフレイル予防を楽しみながらやっていくという、知らないうちに足腰を使っているというような活動が増えるといいのではないかと考えています。

#### （宮本分科会長）

その意味では、健康を維持するための取組みというのは、それなりにやっていると言っていると思いますが、そういう取組みで一番手が付けられていない、漏れている年齢層とか区民とかの問題があると思います。例えば、最近言われているのは、不登校の子たちが学校に行っていないと行くところがない。当然、体を動かすこともなくて、非常に心配であるとか、その子たちがやがて社会に出た時に、健康上の問題もあるのではないかとということが言われています。今、それに対する地域の取組みというのは、ないと言ってもいいですね。塾へ行くとか、フリースクールに行くというのはあるのですが、何しろお金が掛かる。そこへ行くことができない不登校の子たちは行き場がない。先日、新聞に出ていましたが、不登校のために親の5分の1が仕事を辞めたというデータがあります。非常に深刻な事態だと思います。そういう意味では、健康のところは高齢者とともに、健康を維持するためになかなか手が届いていない区民に対する健康維持の取組みとかを盛り込んでいくのがいいのではないのでしょうか。

#### （山下俊樹委員）

そういった不登校児に関しては、足立区では結構やっていると思います。チャレンジ学級などは区内に今5か所あるはずです。特に中学3年生。高校に行きたいので、中学2年、3年からチャレンジ学級を希望する子どもたちが非常に増えていると聞いています。かなり活発に活動をされていて、熱心な先生方もいらっしゃいます。他地域から見学にも来ているという状況だと伺っています。

私もいろいろな場で、チャレンジ学級については元々予算が少なかったもので、何とかならないかと言ってきたこともあったのですが、なかなか難しいところがありました。例えば、健康診断については、元の学校に行かないと受けられないので、チャレンジ学級では受けられない。そういったところで言うと、チャレンジ学級で健康診断って本当に難しいんですね。というのが、そもそもが定期的に通えない子たちですから、その子たちを集めて「何月何日に健康

診断があるので準備をしてください」と言っても、なかなか来られない。逆にそれがプレッシャーにもなり、却って行きたくない。ですので、少しフレキシブルにそういった人たちに対応ができるような仕組みが望ましいのではないかと最近は思っています。

#### （宮本分科会長）

ありがとうございます。どこかにも書いていましたが、足立区はマイナスの面をカバーすることになり力点があるが、良いところを発信するのが弱いというところがありましたが、今の話の不登校その他、いろいろな困難を抱えている子どもに対する取組みは、おそらく足立区は23区の中でも非常に進んでいる区だと思います。ここはきちんと書いておく必要があるのではないのでしょうか。それと同時に、その上でまだまだ工夫すべきものがいろいろあるということも今後取り組んでいくということが必要かと思っています。

#### （長谷川副分科会長）

今、困難を抱えている方々のスポーツというところですが、実は足立区は東京オリンピック・パラリンピックを契機に、オランダの支援を受けて障がい者のパラスポーツに力を入れていこうということで、4年間支援を受けて、先日、パラスポーツの推進協議会を立ち上げました。障害者団体の方も含めて、パラスポーツを、障がいがある方もスポーツをやっていこうという環境を作ろうということで動き出しています。その結果として、大きく二つの取組みがあります。一つは、オランダのヨハン・クライフという有名なサッカー選手がいて、その財団から寄付をいただいて、スペシャルクライフコートというのが総合スポーツセンターの隣にできました。障がい者の方々がスポーツをできるような場所を作ったり、それからもう一つは、障がいがある方はスポーツをやる時に、どういうスポーツができるのか、なかなか相談窓口がなかったということで、その障がい者のスポーツの相談窓口を作り、今までスポーツになかなか親しめるような環境がなかった方々に、スポーツを広めていこうというまさにそういう新しい取組みをしていますので、その辺も

計画に書き込んでいただけるといいかなと思います。

それからもう一つ。引きこもりのことですが、例えば、引きこもりの居場所とかいろいろ状況を聞くと、実はそこでただ単に漫然としているのではなくて、卓球とかやっているんですよ。その中で卓球台があって、スポーツをその中でもやっているということなので、何かそういうところも出せるといいかなと思います。

#### （宮本分科会長）

そうですね。どうもありがとうございます。足立区ならではの非常に重要な特徴があると思います。そういう意味では、いろいろな困難な事情を抱えている区民に対して、フレンドリーな区であるとか、そういうイメージがとても大事かなと思います。障がい者が相談窓口を通じて、何か自分にできるスポーツをしたいという、これは非常に重要ですよね。ニーズとして大きいと思います。同じように不登校の子などでも、時々聞くのですが、学校には行けていないけれども、何かスポーツをやりたいということを考えている子がいる。特に男の子などは体が動かしたい。でも、学校に行っていないし、ジムに行くこともできない。そういう時に「自分もどこかでやれないかな」とか「教えてくれないかな」など、そういう声を聞きます。そのあたりのところも、今回打ち出すのが大事な気がします。

では、都市整備・公園に関していかがでしょうか。よろしいでしょうか。では、先に行きます。災害対策に対する意見はいかがでしょう。

#### （岡安委員）

どこまでこれを反映できるかは別ですが、足立区は地震が来た時の液状化というのが起こることがほぼ想定されています。足立区の場合、大体3分の2ぐらいが液状化の被害を免れないという状況の中で、いよいよ東京都も液状化に関して、令和6年度予算にアドバイザーの無料派遣や、液状化に対しての施策を何か設ける区市町村に補助を出す予算を付けました。足立区も液状化に関して、液状化はこういうものだというパンフレットはあるのですが、対策に関し

ては個人任せになっています。行政として何か支援を設ける時期ではないかと思っています。それを文言としてどこまで入れるかは別ですが、液状化というところがなかなか災害対策では出てきていないので、触れていただければと思います。

#### （宮本分科会長）

とにかく入れておくということに、反対のご意見はないと思います。他にいかがでしょうか。

#### （渡辺委員）

災害のことをどこまで入れ込むかという、きりがないと思いますが、今、問題になっていることの一つに、町会・自治会の加入率の低下があります。ただ、千住1丁目から5丁目という地域は、町会・自治会加入率が高くて70%以上を維持しています。そうした地域というのは、避難所運営会議などをやりますと、多くの方が参加をしていただけるという傾向がございます。先ほど、山下先生からお話があったように、健康についても地域のコミュニティがしっかりしていれば、そこで横のつながりができて、誘い合わせをしながら健康対策もできるし、防災・減災対策についても積極的にしていただけるという意味では、地域コミュニティの増加とともに、地域に参加することで災害時の減災対策・防災対策になるということを広められるような足立区であってほしいなと思います。

#### （宮本分科会長）

このあたり、地域コミュニティがどんどん弱くなっていくというか、ほとんど個になってくるような状態の中で、どのように防災対策をするのか。町会に加入してくださいと言っても、そう有効に働くとは思えないところがある。

#### （渡辺委員）

町会・自治会にそもそも加入していない方々ですね。マンションに住んでいて、要はリモートでやっているような方々も自分の家の近くにいる時間が増えたので、徒歩圏について考えることが多くなった。行動変容があったということです。従って、私たちも自分の住んでいる地域の周りにもっと目を配らなければいけないな

と考えるようになった方が増えているというデータを見ました。そうした時期を捉えて「地域のコミュニティに参画をしましょう」ということを区がもう少し働き掛けて、そうした方々も町会・自治会に入っていただくことによって、災害対策もできるし、地域のコミュニティも様々な理解が広がっていくと思っています。

#### (加藤副分科会長)

町会・自治会では防災避難訓練を各学校拠点で行っていますが、今、加入率が50%を切っている状態ですから、2家族に1家族が入っていないです。そうしますと、受け入れる方は入ってなくても当然受け入れています。そこでコミュニティを作って、絆を作って入っていただくという形にしています。また、今は「町会に入っていない世帯の子どもたちを入れてイベントをやってください」「その場合には助成金を最大30万出します」といったこともやっています。ですから、そこから行事をやって、イベントをやって、町会に入っていただく。そんな形で今は進めています。区の助成もそこに加わっていますので、ある程度イベントもできる。だから、従来とはずいぶん違ってきますね。前は町会・自治会に入っていなければ受け付けないということだったのですが、そうではなくなってきました。

#### (宮本分科会長)

一人暮らしの高齢者以外の人をどうやってコミュニティにつなぐかという問題があります。一人暮らしの方は、大半の人が自分は呼ばれていないと思い込んでいます。だから、みんな家族を持っている人たちのコミュニティであり、町会であるということで、自分が出ていっても居場所がないという感じがあります。でも声を掛けてくれば、出るつもりはあるのだということを調査では言っているのですね。それで特に災害の時には、「今のままではまずい」ということを非常に心配しているということなので、特に一人暮らしの人に対する何か呼び掛けと言いますか、そういうものを工夫していく必要があると思います。というのは、人口規模の中で一人暮らしの、高齢者はもちろん多いのですが、高齢者でないところでも一人暮らしが多

いわけです。ここを何とかしないと、コミュニティはどんどん崩れていく。一人暮らしが増えているわけですから、一人暮らしに対する対策・対応は重要な施策になるのではないかと思います。

#### (小柳委員)

実際にお会いして話すタイプのコミュニティに、全く参加をしたことがない人が初めて参加するというのは、かなりハードルが高いですよ。全く知らない人たちが周りにいる中で「はじめまして」と言って入っていくというのは、実はそうできることではないですよ。実際に今できている方は、初めての時のことを覚えていないので、「来ればいいのに」とおっしゃっているケースがよく見受けられるのですが、それはかなりハードルが高くて、多くの人にとってはほぼ無理なことだと思います。

であれば、どうなっていくのかということ、基本的には前回申し上げましたが、インターネット前提の社会にはほぼなっているのですが、コミュニティ運営もかなりオンラインの方に軸が移っています。実際に会わないということではなくて、オンラインで親交を深めた後、そのオンラインで会っていた人と後で初めて顔を合わせるというケースがかなり増えているというか、そうでないとあらかじめオンラインでどんな人たちが分かっている状態じゃないと、その場に行くのが怖いという構図もあります。一旦、オンラインファーストのコミュニティみたいな感じで立ち上げておいて、そのオフラインの会合があるというような、そういう立て付けに寄っていくと、もうちょっと全体としては今までにない人数の参加が見込めるのではないかと思います。

#### (宮本分科会長)

ありがとうございます。それはとても重要なお指摘であるのと同時に、現実合っていますよね。例えば、10代とか20代ぐらいの人たちを支援している団体の動きを見ると、電話は絶対に駄目。対面はなかなか難しく、最初SNSなどいろいろな方法で関係を作るところから入るというのが一般化してきていますね。そういう形でいろいろなネット上のコミュニテ

ィを作る。小柳委員が前から言われているような起業しようとしている現役世代のコミュニティとか、あとは、例えば病気で悩んでいる方たちのコミュニティとか、いろいろありますが、そういうものが活発に立ち上がるような雰囲気が足立区の中にできると、そこがある種起爆剤になって、災害の時にはそこを中心にしながら、助け合いが起こるとか。そういうことも考えられるなという感じがします。だから、そのための環境づくりを行政が何かできるのではないかなということもあるかなと思います。活動の場所のことが出ていましたが、本当に活動の場所が豊富であれば、自主的にいろいろなコミュニティが立ち上がり、そこへ行って活動ができるようになることがあるかと思っています。

その他の意見ということでいろいろ出ていますが、いかがでしょうか。

#### (小柳委員)

前回、「インターネットベースの取り組みのビジョンというのを持たないとまずそうだよね」という話があったと思うのですが、その具体的な、では例えばどういうことをやったらいいのかというのを一つ挙げるとすると、おそらく区役所でできることの一番初めに思い浮かぶのは、オープンデータの出し方みたいなものに関して、かなりインターネットフレンドリーな形で出す方法を検討してもらいたいというのがあります。それはどういうことかというのと、今、オープンデータというのは、例えば、議事録がPDFで配信されていたり、ZIPファイルで固められていて、ダウンロードしてパソコンで開いてみてくださいというようなものを配信しているのが現状です。それだと、かなり出す方も、読んでもらう時にどう読んでもらうかという体裁を整えなければいけなかったりとかして、区役所の人員って限られていると思うので、そういった体裁の部分に時間を使っていて、何かもったいない気がしています。

ではどうしなければいけないかというと、データそのものをコンピュータで扱いやすい形に出していく。そういうふうにすると、体裁を整える必要がなくて、単に構造化されたデータだけテキストファイルで配信する。コンピュータ

で扱いやすい形式というか、生データみたいなものを配信する方法を採ることによって、ボランティアベースで、このデータであればコンピュータで各々が見やすい形に変換することができる。各々の見やすさというのは多様なので、様々な人が様々な方法で見やすく加工できる。そういうAPIというか、そういったものを提供する形でのオープンデータの配信の仕方をすると、区民は自分たちが自分たちのためにオープンデータを使って何かをすることが非常にやりやすくなります。

今、ExcelとかPDFとか、そういう直接パソコンで見るような形式でダウンロードすると、それをコンピュータで加工して扱う時に、1回大変な変換をしなければいけない。そういう場合、区役所の人が見せるために加工する手間もあれば、それを受け取った人が使う時に更に変換しなければいけないという二重で面倒なことになるので、それを避けるために直接、生のデータを配信するという方法で行ってほしいと思います。これは国の方でデジタル庁が取り組み始めているトピックだと思うのですが、デジタル庁がやっていることが区まで下りてきているのが今一つ良く分かっていないので。デジタル庁がやっているようなことに倣ったりしていくことが、おそらくですが、インターネットベースの施策につながっていくのではないかなと思うので、そのあたりを盛り込んでおいていただきたいと思います。

#### (宮本分科会長)

とても大事なことだと思います。若い世代はこれからもそういう体制ができれば自由にデータを作って、自分たちのためのデータで発信するとか活動するとかいうのができるようになると、とても利便性が高まると思います。要するに参加ができるわけですよ。そういう意味では、これを具体的に区で全国に先駆ける形で足立区がやれば、それは非常に評価が高くなるような気がします。付け加えておいていただければと思います。

#### (遠藤委員)

私、商店街の役員を30年間やりました。その時に相当苦労したのはコミュニティの問題と

か、絆の問題なのですが。いろいろなイベントをやって、そういうのを手伝ってくれるのは、いろいろな形での共有を持っている人が集まりやすいです。例えば、野球をやっているとか、ゴルフをやっているとか、そういった趣味的なもののつながりで集まるとか。先ほどの会議でもいいのですが、そういった形でつながっていると、結構やってくれるのですが。あとは、例えば、私のところは北千住ですが、最近いわゆる地元で育った人がすごく少なくなっています。他から来ている人がすごく多いので、どちらかというと接触するのは、そういった趣味の方のことで入っていく形が一番多かったですね。あまり構いすぎると、全然みんな入ってこないの、本当にそれは大きな問題でした。実際にそういうものでつながりが作れるというか、日本の場合、宗教があまりないので、つながるといってどうしてもそういうつながりになりますね。共有するとか、競争するとか、同じような価値観を持つとか、そんな塊ですよ。そういうものが上手く作れば本当は一番いいと思います。

加えて、さっき小柳さんが言われたようなテクノロジーをそこに入れるということは、埋め合わせをするためには、どうしてもそういった世界がいろいろな形で必要ですね。だから年代層にも分かれていますのですが、そういうものを上手く使っていくということは重要なのではないのでしょうか。

#### **(宮本分科会長)**

おっしゃる通りですよ。これ大事なポイントだと思いますね。そこに住んでいるから団結するのではなくて、何か一つの共通の目標なり共通項ですね。それがいろいろあればあるだけ、上手くいくというようなことなので。そういう意味では、行政の役割も大きいと思います。従来、社会教育の分野などがまさにそれをやってきていました。社会教育も当然そういう問題意識は持っているはずなのですが、そのところをより一層豊にしていく。それと、先ほどのような職業的な関心で集まりを持っている人たちとか、あるいは、悩みでグループを作っている方とか、いろいろな形のもですよ。

そういうものが足立区にたくさんできれば、それが力になって広がっていくであろうというようにイメージでしょうか。

#### **(遠藤委員)**

私の商店街に双葉町から来た人がいます。原発事故に遭って、親戚を頼って来ているのですが、その人の話を聞いてみると、あんなに大きなものが急に起きれば大変ですが、小さな災害みたいなものがいくつか起きた方がコミュニティは強くなると言っていましたね。

#### **(宮本分科会長)**

大きな災害だと全部駄目になってしまいますが、小さいものならみんなで協力して戦おうということで絆が生まれるというイメージですね。

#### **(小柳委員)**

その意味では、来月ぐらいに北千住で足立区の情報処理技術者を集めて、北千住DEVという開発者の集いみたいなことをやろうと思っています。そういうトピックで集まる。今までのコミュニティというのは、おそらく地理的なつながりのコミュニティがたくさんあって、それが町会と呼ばれるものだったと思うのですが、オンラインのベースになっているコミュニティというのは、必ずしも地理的なものだけではなくて、トピックで集まることのできる。以前、宮本分科会長がおっしゃっていたウィークタイになると思うのですが、様々なトピックで固まっている弱い連帯の人たちがネットワークを通して、全体として何か力を発揮していくという方向に行くというのを、区でデザインしていくというのは必要だと思います。

#### **(宮本分科会長)**

ありがとうございました。なかなか良いところに到達してきているように思いますが、時間の関係でその下の方に行きたいと思います。両分科会で共通して意見があった「やりたいことでつながる」。これに関する意見が書かれていますが、何かお気付きの点がありますでしょうか。それでは、もしなければ飛ばさせていただきます。

また、資料の1-1があつて、「ひと」と「行財政」ですが、ここを細かくやっていくとちょ

つと時間的に厳しく、今回は全体会になりますので、その全体会でまたご意見をいただくことができと思います。ざっと見て、資料1-1で何かお気付きの点とか、この分科会と重なる意見も出ていますので、ございましたらお願いします。

#### **(岡安委員)**

不登校とか居場所というのは、子ども・学校教育に関わることで、おそらくそういう発言があったと思いますが、この文言の中にあまり出てきていないんですね。今、様々な居場所を足立区も作っていますが、もっともっと必要だと思っています。SS理論と言って、いわゆる保健室登校でもないですが、別室登校も始まりました。それも全区展開をいずれしようということとで始まっています。

ただ、やはり熱量として、しっかり文言に落とし込んでいくことによって、そういった施策を力強く進められると思うので、その辺も入れた方がいいのではないかと思います。

#### **(宮本分科会長)**

そうですね。まさにそういう状況にあると思います。それから居場所に関しては、子どもの居場所だけではなくて、今、こども家庭庁にも外から意見が出されているようですが、若者の居場所も非常に重要です。例えば、年齢的に言うと、少なくとも18歳を超えて、20代の人たちの中にいる場所がない人たちがいる。建物がないということではなくて、所属できる場所がない人たちがかなりいて、その居場所事業をやっている団体が全国に広がってきているのですが、それも重要です。それから引きこもりに関して言えば、引きこもりは若い人よりも、中年以上の方が増えているので、どの世代でも居場所問題って非常に大きいということです。事務局の方で検討をしていただきたいと思います。それからやはりいろいろな問題を抱えた方に対する支援の取組みというのは、今後、更に重要になってきます。誰がそれを担うのかということと、行政の責任はどこにあるのかということとかですね。要するに連帯して一緒にやらなければいけないという話ですが、それに関わる場所の問題であるとか、情報の問題と

か、そういったものが一塊であるかなという感じがします。これも足立区は、かなり熱心に取り組んできた区だと思いますが、これで終わるわけではなくて、今後より一層重要なので、その点でも足立区が全国のモデルになっていくことは、目指すべき価値のあることだと思います。

では、資料1、2はここまでとさせていただきます。

## **2 足立区基本計画策定のための多様な意見聴取について**

### **(宮本分科会長)**

では、次第の2、足立区の基本計画策定のための多様な意見聴取について、事務局から説明をお願いします。

### **(伊東基本計画担当課長)**

資料3をご覧ください。足立区基本計画策定のための多様な意見聴取についてということとで、今後、事務局で行っていくことのお知らせになります。まず左側ですが、審議会への若年者の参加ということで、もう一つのひと・行財政分科会の方に前回から大学生の森元委員に加わっていただいて、いろいろな意見をいただいています。今後ですが、①のライブミーティングの実施と②の子どもへの意見聴取の実施の二つを行いたいと思っています。

①のライブミーティングですが、これはインターネットを通じて、動画の生配信をして、インターネット上で質問等を受け付けて、区側の考えや方向性の議論ができる場という取組みです。抽選ですが、もちろん会場にも区民の方をお招きして、会場からも意見を受け付けします。こちらは、5月26日の日曜日の午後、生涯学習センターを会場として行いたいと思っています。

そして、もう一つが子どもへの意見聴取ですが、区立小中学校の児童・生徒が1人1台タブレットを既に持っているので、そのタブレットから区側に対してご意見が出せる仕組みを整えていきます。その第1弾となるのですが、基本計画に関連して、子どもたちに「足立区は将来どういう区になってもらいたいのか」などにつ

いてご意見を募りたいと思っています。小中学生を対象に行っていくのですが、年齢が幅広くなりますので、答えられる範囲も変わってきます。ですので、内容については、小学生についてはここまで、中学生は自由意見を含めた少し深いところまで回答していただくような形で、段階を分けて実施をしたいと思っています。実施期間としては、4月中旬から7月末ということで、少し広くご意見をいただきたいと思っています。もしかしたら学校の授業の中で、これを題材にして、足立区の将来を考えることもやっていただけるかもしれません。このあたり、小中学校の校長会等でも私どもからご説明を差し上げる予定です。

**(宮本分科会長)**

ありがとうございました。それではこの資料3について、ご意見等あればお願いします。

**(岡安委員)**

①のライブミーティングの右側に書いてあるパネリスト、これはどのような方を想定しているのですか。

**(伊東基本計画担当課長)**

この審議会の正副会長と区長を予定しています。

**(宮本分科会長)**

他にいかがでしょうか。私は千葉市に住んでいて、この間、子ども基本条例を作るという作業が1年間ありまして、その過程の中で子どもたちに出てきてもらって、意見を言ってもらおうというフォーラムを3回ぐらいやりました。その子たちは、4か月ぐらいの間に月1回集まって活動をして、意見をまとめて持ってくるという形で発表をしたのですが、そういうところに出てくる子どもたちというのは、見事にものを言います。小学校2年生ぐらいでも本当に堂々と意見をします。しかし、やはり発言されるのは優等生の意見です。本当の実態が分かるかというと、それでは分からないと感じざるを得ないです。

それで、委員会の中でもそうではなくて、発言はできないけれども、本当は一番意見を言いたいし、助けてもらいたいと思っている子たちがいっぱいいる。その子たちにどうやって意見

を言ってもらえるのかということが議論されました。

私が評議員をやっている公益財団法人あすのばという団体が都内にあります。団体で寄付金を毎年3億円ぐらい集める力が出てきたのですが、小1・中1・高1の入学の時にまとまったお金が必要で、入る時に制服など一式をそろえると10万は掛かり、そのお金が全然出せなくて、入学式に行かない子がいるという状態があるため、このような家庭に3万円か4万円ずつ現金を給付するという活動を行っています。過去5年間に給付を受けた子たちと保護者に調査をし、結果がまとまってきているのですが、保護者も子どもも自由回答欄にぎっしり記述していて、回答を読むと本当に驚くのですが、1日に1回しか食事が取れない子が相当いて、それよりももっと気の毒なのは保護者で、子どもに1食食べさせるために、お母さんはご飯を食べていないということが書いてあって「毎日毎日、明日生きて行かれるかということを不安に思いながら過ごしています。何とかうちを助けてもらえないものでしょうか」と子どもが書いています。

でも、自治体やるイベントでは、そういう声は聞こえてこないですね。そういう意味で、今回どこまで意見聴取をするのかというのは、大変重要なポイントです。一気にそれをするというのはとても手間暇が掛かり大変なことなので、そう簡単ではないのですが、何か少しでも工夫ができないかなというのはあるような気がします。優等生の声を聞くのではなくて、本当の意味で苦しんでいる子たちの意見を聞くということです。

**(伊東基本計画担当課長)**

ご懸念の点はもちろんあるかと思います。ですので、いわゆる優等生の子を集めて意見をいただくということではなくて、今、足立区は1人1台タブレットを既に子どもたちは持っており、自分の意見や考えを出せる状況・体制になっていますので、そこで自分の思っていることや足立区は将来どういうところだと自分たちが住むにあたっていい街になっていくのかといったところで、率直な意見をいただきたいと思

っています。おそらく十人十色の答えがいただけるのではないかと考えています。

**(宮本分科会長)**

「あなたが今一番困っていることは何ですか」みたいな質問を一つ入れておいてもらって、状況がある程度分かります。でもそれを集めてどうするのかという問題が行政としては出てきますが。

**(伊東基本計画担当課長)**

検討させていただきます。

**(長谷川副分科会長)**

事務局にあまりプレッシャーを掛けてもいけないと思うのですが、このやり方だと定量的に量をたくさん集めるというのは、タブレットなのでいいのですが、先生のお話を聞いて、例えば、居場所にいるお子さんたちにグループミーティングでもないですが、直接行って話を聞くとか。実は今日来ている近藤福祉管理課長が高齢者施策で、各地域十数か所回っているいろいろな意見を聞いています。

**(伊東基本計画担当課長)**

今年度は5か所、来年度は10か所予定しています。

**(長谷川副分科会長)**

区内各地域を回って、集まってくれる方は限定されるかもしれませんが、そこに行って地域の皆さんの声を聞く形を取りました。初めてだったのですが、非常に様々な地域で声をいただいたということで、手法としては今までなかなか区が取っていないようなものでした。例えば、これもタブレットで量はたくさん集められますが、いろいろな居場所があるので、その居場所に行って声を聞くとかですね。そういう定性的なというか、もう少し踏み込んだような手法も考えた方が、優等生ではなく、なかなか声が出せないお子さんたちの声を聞く手法としては、居場所に行って聞くのも一つかなと思いました。

**(宮本分科会長)**

ですから、今後の方向というか、課題ということで結構かと思っています。今回これでやるとなると、事務局はそれだけですべての時間が飛んでしまいます。

**(伊東基本計画担当課長)**

ありがとうございます。もちろん地域ミーティングという手法もあると考えました。まとめていく期間等を考えた時に、時間的に現実的ではない部分が正直ありました。ただ、多様な意見をいただきたいという考えもあって、①のライブミーティングという手法を選ばせていただきました。実は、去年の1月にも、区制90周年の際に100周年に向けて区民がどのようなお考えをお持ちかということで、同じような仕組みでやらせていただきました。その時にも、やはり時間的には1時間半ぐらいだったのですが、600件以上のお声をその時にいただきました。今回、同様の取組みで、出向いていくことは難しかったのですが、幅広い意見をいただきたいということで、ライブミーティングを開催させていただきたいと思っています。

**(宮本分科会長)**

ありがとうございます。他にいかがでしょうか。では、一通りご意見をいただいたということで、この議題はこれまでとします。

### 3 基本計画における施策に関する変更内容について

**(宮本分科会長)**

それでは、次第の3にまいります。基本計画における施策に関する変更内容についての確認です。これは、これまでの議論を基にして、事務局でまとめていただいておりますので、ご説明をお願いします。

**(伊東基本計画担当課長)**

資料の4-1から4-5をご覧ください。先ほど前回の審議会の内容の振り返りをご覧くださいましたが、こちらには当初から現行の基本計画について、改善すべき点ですとか、新たに加えるべき点というところのご意見を出していただいた内容が記載されています。前回の分科会では、それまでに出ていなかった意見を追加いただきましたので、先ほどの資料では全て網羅ができていませんでした。今、ご覧いただいている資料のオレンジのラインの変更要素と書かれているところが、従前から審議会の中でいただいた意見の内容になっています。今後、審

議会から次の基本計画の内容の答申をいただきます。答申については、今までいただいたご意見がある程度文章化をして区長に答申をいただきたいと思っています。変更内容に書かれた内容を、少し記述的にしたものとして案を出したのが右側の赤いラインにある次期基本計画で新たに追加する、目指していく姿・目標でございます。これが答申の骨格になるものだとご理解をいただければと思います。

本分科会はくらし・まち分科会ですので、資料4-2と4-3を中心にご覧いただきたいと思っています。一番上から行くと、この分科会の所管範囲である健康施策になります。健康施策のところについては、記載の通り、区民の方々が健康・病気に関する正しい知識を身に付けて、まち全体で公衆衛生に取り組むという姿ですとか、地域住民がお互いを見守ることとか、反社会勢力の排除というところもこの分野になりますので、こういった文章化したようなところを答申いただく案にできればと思っています。

先ほど、岡安委員からフレイルの話が出てきましたが、これについては高齢者・障がい者の生活サポートの体制を充実するという施策の中に落とし込んでいきたいと思っています。

4-3については、「まち」の分野になります。こちらは災害とか交通、そして地域の特性を活かしたまちづくりや地域経済といった分野の取組みになります。個別具体的なものを取り上げていくと、非常に冗長になってしまう部分があるので、ある程度網羅ができるような文章表現にしています。ですので、若干抽象的になっている部分がありますが、いろいろな意味合いが込められているということで、表現としてこのようにまとめさせていただいています。ご意見をいただければと思います。

#### **(宮本分科会長)**

ありがとうございます。それでは、まず資料の4-2。これが「くらし」に関してですが、これをご覧いただきまして、こういう形で整理するということについてご意見をいただきたいと思います。追加すべき内容、修正点について

#### **(伊東基本計画担当課長)**

補足をさせていただきます。資料の4-1や4-4がひと・行財政分科会の内容となります。4-4をご覧ください。例えば、4-4の一番上、④などに、先ほど災害時のコミュニティの話がございましたが、「災害があっても地域に頼り、相談ができる人が身近にいる地域づくり」をしていくべきという内容を追加していくことや、デジタルで情報発信をいろいろやっていくといったところは、3番目の「区のイメージを高め、選ばれるまちになる」というところに、文言を加えていくことを検討させていただければと思います。

今までご議論をいただいた内容は、もう一つの分科会ともオーバーラップする部分がございますので、合わせて4-1や4-4をご覧ください。先ほどご意見をいただいたものがこの記載の中にあるかどうか合わせてご覧いただきたいと思っています。

#### **(宮本分科会長)**

今は「くらし」を中心にですが、全体を見渡していただきながら、ご発言をいただければと思います。

#### **(岡安委員)**

先ほどの資料の1-2の「その他の意見」の一番下に、渡辺委員の詐欺に強い足立区というのがありました。今、サポート詐欺ですとか、ロマンス詐欺とか、非常に報道でも盛んに注意喚起がされています。また、振り込め詐欺に至っては、これだけ数年間注意喚起がされても、一向にその額や件数も減らないです。最近はちょっと強盗化している面もありますが。ただこういった点は、「命や財産を守る」というここに入ってくると思うのですが、どこで謳っているのですか。

#### **(伊東基本計画担当課長)**

資料4-2をご覧ください。真ん中のあたりに施策のラインがございます。その3番目に、「消費者被害や特殊詐欺被害を未然に防ぎ、区民の暮らしを守る」ということが、施策となっています。右側のオレンジのライン、赤いラインというのは、今ある計画の中に入らないものですか、今後ブラッシュアップすべきというようなところを記載していますので、ここには「詐

欺に強いまち」という文言は出ていないのですが、「消費生活に関する啓発を行って、自立した消費者を増やすまちづくり」というところに、「詐欺に遭わない」といった意味合いを包含していると捉えています。

**(宮本分科会長)**

他にいかがでしょうか。

**(渡辺委員)**

それこそ事務局に苦勞して作っていただいた文章なので言いづらいのですが、一番右の赤い欄の上の枠の4番ですが、「行政が専門家と連携することで、ごみ屋敷問題」などとありますが、ごみ屋敷よりも最近は空き家対策の方がクローズアップされているかなと思います。

**(伊東基本計画担当課長)**

ありがとうございます。これは併記がいいかもしれません。

**(宮本分科会長)**

そのようにお願いします。

**(渡部委員)**

施策緑の3番目に、「高齢者・障がい者などの生活サポート体制を充実する」とあって、2番に障がい者などが必要なときに必要な支援を受けられる体制の充実」と書いてあるので、もう既に施策としては、この文言が入っていると考えますが、例えば、ろう者団体の方は、毎年毎年区役所、それから区の各施設全てとは言いませんが、大きなところになるべく手話のできる方を配置してほしいという依頼を何年も出しています。しかし、開庁時間全て毎日そういった方を置くことはできないという回答が毎年返ってきます。なので、できることとできないことはあると思います。必要な時に必要な支援を受けられる体制というのが、ろう者の方にとってはやはりいつ行っても手話で会話ができるというのが、手話が彼らのコミュニケーションなので、そこに筆談ができる方を配置していますとか、いろいろなやり方はあるのですが、手話通訳者を配置してほしいというご意見もありつつ、そのあたりが結局文言として載っていても、自分たちが必要な支援を受けられていないと感じているとなつた場合に、そこに齟齬があると感じるものが結構たくさんあるなと感じて

います。したがって、ここに載せられている文言がどこまで言葉だけにならないようにするのかというのは、すごく難しい問題だと思っています。もちろん健常者から見た、既に揃っているじゃないかという意見と、当事者から見た「いや、これでは足りない」という意見のすれ違いはどうしても起こるものだと思いますし。予算的なものもあると思うのですが、そういったところが上手く言葉として、この言葉からこういう支援に広がったということが分かるような、何か文言なり施策を追加する項目があつてほしいと感じました。

**(宮本分科会長)**

もうちょっと具体的に、どこにどういうというのをご指摘いただけますか。

**(渡部委員)**

「障がい者などが必要な時に必要な支援を受けられる体制の充実」が、実際にこの通り望んだ体制が整っていればいいのですが、そうじゃないというところが結構多いので。いつも区の方々とお話をするような機会もあるのですが、その時にも全てが通るわけではないので、すごく難しいなと思いつつ、例えば、目標のところに「障がい者など全ての住民が当事者として地域とかかわり、つながりを持つことができるまちづくり」とあるのですが、例えば、障害者団体で防災訓練とかで地域に行き、障がい者によっても防災訓練の内容って本人の障がいの度合いによって変わってきます。例えば、目の不自由な方だと、訓練に参加すること自体が大変なのでという、個別に何か訓練をするようなことができないかという要望もあり、逆にろう者の方は話はできないけれども、防災士の資格を持っていますみたいな防災に強い方もいるため、何かお手伝いができることがないだろうかと思っているのだけれども、訓練に行っても何もできない。訓練に参加させてもらえないということ聞いたこともあります。ですので、「全ての障がい者も含めたつながりを持つことができるまちづくり」というところに、それができるようにどういうふうにしていくのかみたいな、ここに書いてあつてもできていないというところをどう無くしていくのかとなつた時に、どう

いうふうに書いたらいいのかが私には今は浮かばないのですが。実際とずれがあるなというのを感じているので、そのあたり上手いことどういうふうにしたらいいかというのが、ご意見をいただけるとありがたいと思います。

**(岡安委員)**

本当に今の渡部委員の指摘はまさにその通りでして、足立区は全くやっていないわけではないですし、充実は少しずつしているのですが、いわゆる遅々として進んでいるというのが障がい者施策だと思います。いろいろなタブレットでの手話ですとか、様々取り入れながら、23区でも遜色ないほどの施策は持っているし、事業もやっているのですが、今おっしゃったように「では十分か」と言われると、障がい者の皆さんから見れば、まだ不十分だと。

例えば、エスコートゾーンなども、いわゆる横断歩道で盲人の方が杖を突いてそこを斜めに行かないように、真ん中にグレーの点字ブロックみたいなものがあるのですが、まだまだそれも少ないですし、歩道の高さも都会の方は3cmぐらいの低い段差が主流になってきているのですが、足立区はまだまだ13cmぐらいの段差の歩道もかなりあったりして、あれもガードレールがないとそこから落ちたりいろいろあります。なかなか難しいなと。だからといって、それを一気に解決するには、全部ハード面でも相当なお金も掛かるでしょうし。少しずつやっているかなというところがあるので。今度改正障害者基本法の中で、企業にも合理的配慮を求める法律が改正されて、4月からでしかが始まります。その合理的配慮をなお一層進めるとか、こういう文言などはどうかと思います。が、いかがでしょうか。

**(伊東基本計画担当課長)**

今、おっしゃった合理的配慮は、まさにそのイメージで、例えば③の「全ての住民が当事者としてかわれる」といったところで意味合いとしては考えていたので、より分かりやすい合理的配慮という言葉は重要なキーワードだと思いますので、このあたりは答申の中に盛り込む形で考えていきたいと思っています。

**(宮本分科会長)**

他にいかがでしょうか。

**(山下俊樹委員)**

基本計画となると、こうやって「ひと」「くらし」「まち」「行財政」と分類して、問題点を挙げて、そして意見・目標となると、網羅的で総花的にならざるを得ないということは分かるのですが、まさに渡部委員が言ったように、では解決のための計画はどこにあるのとも捉えられてしまうと。今日の話し合いを聞いていますと、ヒントはあると思います。例えば、引きこもりとか不登校とかニートとか、そういう問題に関しては、場所によらないものなので、ITとかデジタルを利用して対応していくと。その時に、例えば必ず問題になるのが個人情報とか、そういった壁を解決しながら、大胆な施策を行っていくとかですね。あるいは、逆に災害とか都市整備とか公園などという、これはリアルな問題で、地域の問題なので、町会・自治会の加入率を下げている障壁ですよね。例えば、会費の問題だとか、実際の集会の問題であるとか、こういったものも大胆な施策で解決していくと。そこまで突っ込んだ目標が書けないものかと感じました。

**(宮本分科会長)**

そうですね。大事なご指摘だと思います。が、いかがでしょうか。

**(長谷川副分科会長)**

確かに具体的に何をいつまでにどうやるのかというところは、最初に事務局の方で説明しましたが、今、皆さんがご審議をいただいている基本計画の位置付けが、その下に各個別というのがございまして、その個別計画には、まさに数値目標を入れて、いつまでに何をしていくのかというのを落とし込んでいくというところなので、今、ご議論をいただいているところに、どこまで具体的なものが取り入れられるのかというと、計画の構造上その辺は難しいところがあるので、これを受けて個別計画にどう反映させていくのか。その大きな基本計画の方向性を個別計画に落とし込んでいく。そういう形かなと、私は理解していますが事務局はどうですか。

**(伊東基本計画担当課長)**

今、長谷川副区長がおっしゃった通り、基本計画はどうしても位置付け的に最上位計画になるので、ここで文言として載せたものを踏まえて、各個別の計画の中でより具体的にしていこうになります。あとはもちろんこの基本計画の中で、今は骨子の案ということの想定で書いていますので、言葉としては抽象的な部分が多いのですが、実際の計画になった時には、施策ごとにページを設けて、もう少し詳細に書き込みをいたします。今回いただいた答申を踏まえて、私どもの方でこの施策は手話の話ですか、合理的配慮を更に進めていくとか、そんな文言を書き込む形になりますので、いただいた答申を全て総合して踏まえて、施策の文言の中に書き込んでいきます。

#### **(渡辺委員)**

この答申ができたあと、その下で政策に反映する際に、また民間の方々に入っていたいたところでブラッシュアップを掛けていくという作業が必要なのだと思うのですが、いかがですか。

#### **(伊東基本計画担当課長)**

毎年、施策ごとに目標値の大きなものは決めています。それについて、もちろん庁内でも評価をしていますし、特により重要なものについては、区民評価という形で、民間の方や区民も入れて、その事業の評価もいただいております。それ以外でも、今後どういう形ができるかも含めて考えたいと思います。

#### **(渡辺委員)**

ぜひよろしく願いいたします。渡部委員がおっしゃった話などは、岡安委員や私たちは各種団体の方々との意見交換会を集中的に毎年やっています。そうした中で感じることを先ほど岡安委員から言っていただいたと思っています。そのすれ違った部分だったり、埋まらない部分だったりという、もどかしい部分を渡部委員はおっしゃったと思いますので、それは私たちが形を変えた中でも言っていないといけません。この基本計画だけではなく、足立区の中で反映するために発信するという区議会の役割が改めてあるなと思いました。

#### **(伊東基本計画担当課長)**

もちろん、私どももそういったギャップというのは極力なくしていきたいと、そうすべきだと思っています。ただ、どうしても現実的に何らかのギャップが生じます。その時には、なぜできないのかというところは、区側に問うていただきたいと思います。できる部分、できない部分が区側にもございますので、そこは胸襟を開いてお話をしていくことが、やはり大事な点だと思いますので、厳しいご意見を含めて区側にぶつけていただければと思います。

#### **(渡辺委員)**

ありがとうございます。この中で赤の部分の2段落目。行政だけではなく、区民がやりたいことと協働して、CO2削減に取り組んでいくということと言うと、SDGsの視点は欠かせないと思いますので、ここにその文言も入れていただきたいと思います。いかがでしょうか。

#### **(伊東基本計画担当課長)**

ありがとうございます。SDGsの代表的なものは都市の環境というイメージになりますので、その点は文言を取り入れていきたいと思っています。

#### **(宮本分科会長)**

次の「まち」に進みます。資料4-3ですがいかがでしょうか。

#### **(岡安委員)**

3番に水害と書いてありまして、なかなかオレンジとか赤のところに水害に特化した表現というのが少なくてですね。もちろん先ほど言われた通り、包括的な表現になるので、個別計画になってくるかとは思いますが、こういうのに関わる委員会の中でも大変大事な視点で、水害の場合にはコミュニティタイムラインと言っていますが、各々の地域で時間ごとにどういうことをやらなければいけないかを作り始めていて、特に河川沿線の自治会・町会があります。これを委員会でも、区としてもより一層進めていきたいと、町会・自治会の皆さんに説明して理解を得て、もっともっと全国的に広めていきたいという答弁も出ていますので、コミュニティタイムラインや、震災にも関わりますが、地域防災計画。それぞれの地域がどういうところ

に防災の欠点・弱点があるのかを、その住民みんなで共有しながら、地域の防災力を高める。地域防災計画を策定していく。これも今、30町会で進んでいますので、これも全部の町会にできる限り働き掛けていくという区の姿勢も委員会では示していますから、その辺の文言も必要だと思いますが、いかがでしょうか。

**(伊東基本計画担当課長)**

コミュニティタイムラインについては、実は現行の計画の中でも策定を進めていくということが入っています。地域防災計画の策定を進めていくところも、念頭にございます。はっきりとした文言として入れていくかどうかについても、検討をさせていただければと思います。

**(宮本分科会長)**

他にいかがでしょうか。

**(渡辺委員)**

変更要素の2段目、交通空白地域と新しい交通システムについて、右側の赤いラインでは既存の交通手段以外も含めた利便性の高い快適な交通環境づくりとなっていますが、今、足立区では例えば、はるかぜ等の減便があったり、廃止路線があったりしている中で、新しい交通手段のための実証実験・モデル事業なども始めていて、そこら辺が上手く表現できるようなことがあればいいと思います。まさに「利便性の高い快適な環境づくり」というのがありますが、その前段で様々な要件があって、交通空白地域の部分が少しずつ増えていくとも言われていますので、そこについて触れておく必要があるのではないかと思います。

**(伊東基本計画担当課長)**

交通空白地域というのを生み出さないために、この取組みを進めていくことになります。そういった背景も書き込んだ方がいいというご意見ですね。ありがとうございます。

**(宮本分科会長)**

そろそろご意見が出尽くしましたでしょうか。それではこのあたりまでにしたいと思います。多様なご意見をありがとうございました。

**(山崎基本計画担当係長)**

資料の4-5というのがございまして、「ひと」「くらし」「まち」「行財」の4つの視点

があるのですが、こちらが全ての分野に横断的な視点となっておりますので、こちらについてもご意見をお願いいたします。

**(渡辺委員)**

働き方改革で大きなことがクローズアップされていると思っていて、一つは人材不足ですね。業界によってはそれが深刻になるだろうという一方で、働き方改革で時間ができる方もいるのかなと思っています。そうした方々が行政や地域に関わっていただくことで、このやりたいことというのが埋まる可能性があるなと思っています。そこら辺のことについては、どこかの文言で入れていただけるとありがたいなと思います。

**(伊東基本計画担当課長)**

ご意見ありがとうございます。これまで地域と関わりが難しかった方々も、こういうやりたいことでいろいろな方とつながっているという点が、私どもも必要だと思っていますので、そのようなことが分かるような形にさせていただきます。

**(加藤副分科会長)**

ここにやりたいことができると書いてあるのですが、これは子どもから高齢者まで幅広い年齢層、また職業のやりたいこととか、あるいは趣味とかボランティアとか、全てを含むということなのでしょうか。

**(伊東基本計画担当課長)**

おっしゃる通りです。その人その人でおそらく取り組みたいこと、やってみたいことは自ずと異なるとしますので、その方が自分の望むことが実現できるという地域にしていきたいところを、今回大きなテーマに据えていきたいと思っています。

**(加藤副分科会長)**

分かりました。やりたいことは大事だと思いますので、具体的なことを書いた方がいいのではないかとと思うところもあるのですが。

**(伊東基本計画担当課長)**

それは主語ということでしょうか。誰がということなのか。例えば町会活動をやりたいとか、地域活動をやりたいとか、具体的な事象のことをイメージしているのですか。

**(宮本分科会長)**

あえて具体的に自称を示さないことによって、やりたいことは全部それぞれの個人にあるのだということを前提にして、それを実現することが住みやすいまちであるという、そういう位置付けではないかと思います。このあたりでよろしいでしょうか。ありがとうございました。では、今回の意見を踏まえて、次回の全体会以降ではこの審議会の答申を確認していくことになります。またここで提案させていただきたいことがあります。今後、答申の確認を行っていくのですが、答申は各分野に横断的な内容となっていきます。このため、令和6年度に関しては、当初の予定では全体会を2回、分科会を1回開催することになっていましたが、これを変更して、全てを全体会として開催し、分野横断的に確認をしていくことが望ましいのではないかと思います。いかがでしょうか。では、皆様に賛成していただけたということで、全体会を3回やることにしたいと思います。もう一つの分科会のご意見もありますので、それを踏まえて事務局の方で調整をお願いします。

そろそろ時間となりましたので、ここで足立区基本計画審議会、第4回くらし・まち分科会を締めさせていただきます。では、進行を事務局にお返しします。

**4 事務連絡**

**(伊東基本計画担当課長)**

本日も様々なご議論ありがとうございました。今、会長からもございましたが、次回は第3回全体会となります。日時ですが、令和6年6月10日の午後2時からを予定しています。場所は本日と同じ、この8階の特別会議室の予定です。当日の資料については、今回と同様にあらかじめ送付する予定です。ご希望の場合はデータでの送付も可能ですので、ご入り用の場合は事務局までお申し付けください。それでは、お忘れ物のないようお帰りいただければと思います。お車でお越しの委員の方は、駐車券のご用意がございますので、係員までお声掛けください。本日はどうもありがとうございました。